釈迦堂

光明堂から代わった釈迦堂は、新勝寺の前本堂であった。1858年に建立され、現在は重要文化財となっている。仏教を開かれた釈迦如来(またの名をシッダールタ王子)が安置されている。

周囲の板壁には、五百羅漢(悟りを開いた弟子)の、19世紀の緻密な彫刻がなされている。仏師松本良山(1801–1872)が10年の歳月をかけて彫刻し、それぞれの弟子に異なる表情を与えた。これらの像は、日本の絵師狩野一信の有名な絵をもとにしたと考えられている。その絵は、江戸時代(1603–1867)の最も重要な宗教画だとも言われる。扉には、嶋村俊表による中国の24人の模範的孝行人たち(訳注：二十四孝)の美しい彫刻がある。